



トップメッセージ	NTTグループの概要	NTTグループのCSR	人と社会のコミュニケーション	人と地球のコミュニケーション	安心・安全なコミュニケーション	チームNTTのコミュニケーション	ガバナンス	GRIスタンダード対照表
地球環境に対する考え方	環境マネジメント	環境負荷の全体像	社会が低炭素化している未来へ	資源が循環している未来へ	自然と共生している未来へ			

海外グループ会社の取り組み:Dimension Data

ディメンションデータ社は、2017年1月までに、自社のCO₂排出量を100万トン以下とし、お客さまにICTを活用いただくことによって削減できるCO₂排出量よりも自社の排出量を少なくするという「カーボンニュートラル」の状態を達成しました。

同社は、お客さまがICTを活用することで削減できるCO₂排出量を、自社の排出するCO₂量よりも180万トン以上削減することを、2014年10月から2018年10月までの目標として設定しています。また、同4年間における自社のCO₂排出量を100万トン以下に抑えることも宣言しており、この目標については前倒しで達成したことになります。

同社が、ICT活用による省エネ化の重要分野としているのは、サーバのクラウド移行と、ビジュアルコミュニケーション（視覚による情報伝達）技術の活用による人の移動の削減です。例えば、サーバのクラウド移行を推進すれば、ひとつのサーバ当たり削減できる消費電力量は約4,000kWhに上ります。これら同社が持つ技術やスキルを用いて、今後も自社の排出するCO₂量よりも、お客さまのもとでのCO₂排出量を180万トン以上削減するという目標の達成に向けて取り組んでいきます。

■ディメンションデータ社のCO₂排出量

FY 2016*	GHG直接排出量(スコープ1)	約1.3万トン
	GHG間接排出量(スコープ2)	約9.8万トン

* 2016年7月～2017年6月

通信事業の電力効率

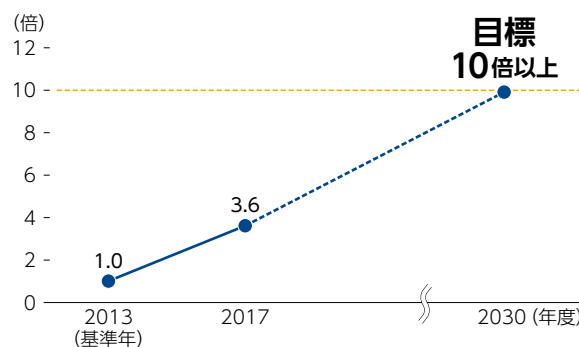
NTTグループは、2030年度の目標として、データセンターを含めた通信事業の通信量当たりの電力効率を、2013年度比で10倍以上とする目標を設定しています。電力は通信事業継続に不可欠であり、またNTTグループのCO₂排出要因の95%以上を占めています。電力利用の効率を上げることは、事業継続リスクの回避と、気候変動の緩和の両面につながると考え、目標を設定しました。

省エネ性能ガイドラインに基づく、省エネ性能の高い機器の導入や、ネットワーク構成の効率化を進めることで、

2017年度は2013年度に比べ、同じ電力量で3.6倍の情報量を提供することが可能になりました。

* 電力効率の算定対象である「通信事業」は、アニュアルレポート記載の「通信事業」セグメントのうち国内の事業を対象（東日本、西日本、コミュニケーションズ、ドコモ、データの5社を対象）

■通信事業の電力効率



「TPR運動」によるグループ一丸となった電力消費量削減

NTTグループの事業活動におけるCO₂排出量の95%以上を占める電力使用に対しては、1997年10月から、「TPR（トータルパワー改革）運動」と名づけた省エネ推進活動に一丸となって取り組んでいます。保有するビルにおけるエネルギーマネジメントの推進、エネルギー効率の高い電力装置や空調装置、通信装置の導入や更改に努めた結果、2017年度も継続的な削減を実現でき、グループ全体で成り行きから約6.0億kWhの使用電力量を削減しました。